

エンジン・部品を販売・整備 国内外の顧客ニーズに応える

長崎マリンサービス株式会社（長崎市京泊）



相互信頼 報恩共生



奥田良雄・代表取締役社長

今回は、長崎市にある「長崎マリンサービス株式会社（〒851-2211 長崎市京泊2-8-6、奥田良雄社長、☎095-814-1236）」を取材した。同社は創業以来、企業理念として「相互信頼」「報恩共生」を掲げている。ダイハツディーゼルの船用製品の取り扱いを中心に、ダイハツの発電用ディーゼルエンジンの据付工事やメンテナンス、三菱重工業の発電用KUディーゼルエンジン・MACHガスエンジンの据付工事やメンテナンスも請け負っている。

また、国内外エンジンメーカーの船用及び陸用ディーゼルエンジンの据付工事やメンテナンス、海外機械メーカーとの貿易を通じて船舶・船用機械・周辺機器の特殊部品の輸出入・販売に取り組んでいる。

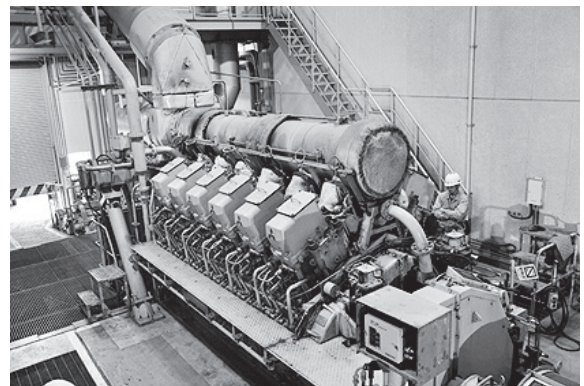
24時間体制の完璧・迅速なアフターサービスの提供を基本として、国内外市場の顧客ニーズに応えるとともに、地球環境改善も視野に入れた企業活動を展開している長崎マリンサービスを紹介する。

★ 創業の経緯 ★

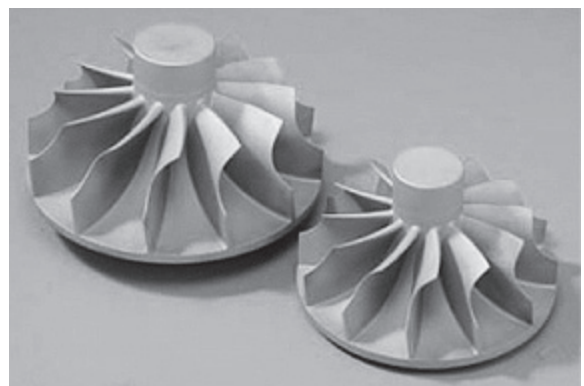
昭和41年（1966年）頃よりダイハツディーゼル株式会社は、開発して間もない新しいタイプの主機関、いわゆるダイハツギヤードエンジンをもって主機市場に進出した。九州においても福岡営業所を活動拠点として、フェリー・漁船を対象とした販売合戦に参入していき、当初、主機メーカーとしては馴染みの薄かった同社も、高精度のダイハツ主機関搭載船が増えるに連れて、業界でもクローズアップされるようになる。

その反面、高精度加工の中速機関は、在来型の機関とは異なり、当時は地方鉄工所の技術レベルではメンテナンスの対応ができず、メーカーのサービス要員も不足していた。

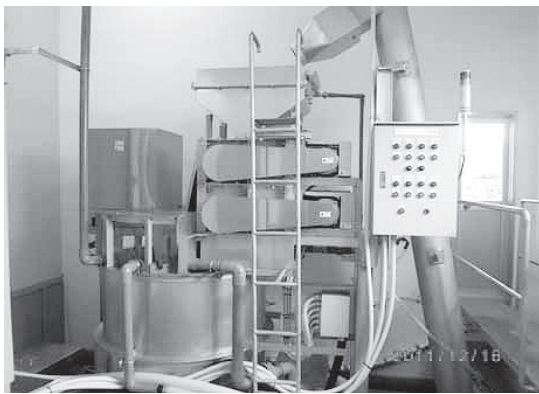
そこで、昭和43年（1968年）8月、日本漁網船具株式会社（現ニチモウ株式会社）を代理店とするダイハツディーゼル株式会社からのバックアップを受け、船舶機関・部品の販売・整備といったアフターサービスを主要業務とする新しい組織として「長崎マリンサービス株式会社」が設立された。設立時より、ダイハツディーゼル株式会社には資本参加などの協力を得ている。



整備作業中のディーゼルエンジン



過給機用タービンホイール



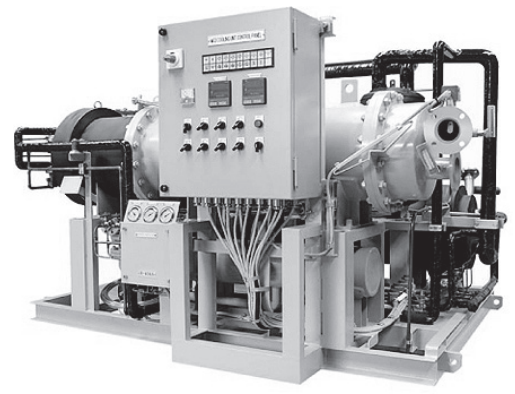
塩水氷製造装置 本体



微細水で魚を保冷



氷搬送システム車



船舶燃料油 マリンガスオイル冷却装置

★ 本社・工場の設立 ★

創業当時は、社員数が5名と少なく、まずは事務所探しからのスタートとなった。金子漁業株式会社のご厚意により長崎駅前にある長崎水産ビル（現ホテルニューナガサキ）の5階に事務所を構えた後、エンジン整備事業に着手した。創業から3年目に入ると、工務部門の社員を含め、社員数は15名まで増え、社員数増加により、本社対岸の長崎市旭町に工務専用の旭町工場を開設した。それ以後、サービス・工務両部門の活動拠点となり、同工場はその後、工務部門の作業人員が30名近くに達し、年間40隻程度の船舶検査工事を請け負い、陸用も含む各種工事の中心となった。

平成8年（1996年）11月、新長崎漁港に程近い長崎市京泊に新しい工場が完成し、平成14年（2002年）には本社機能も京泊の工場敷地内に移転した。

★ 事業の変遷 ★

平成8年（1996年）4月には、社名を「ダイハツディーゼル西日本株式会社」に変更した。この頃からダイハツディーゼル九州・山口地区総代理店として、ダイハツディーゼルの船用機関及び陸用機関、ディーゼルエンジン部品の販売及び関連工事などを担当していた。

それと並行して、長崎市にある工務部を中軸とした長崎地区の業務を分社化することが決まった。社名は、長年の間に業界で浸透していた「長崎マリンサービス株式会社」を継承することとなり、それにより、新生「長崎マリンサービス株式会社」が再誕して、現在に至っている。その頃から陸用の大型自家発電機関の据付工事の本格受注を開始した。

また、据付工事部門や保全部門の監督・管理業務の適合事業者であることを明示するため、エンジンメーカー各社が実施する「SV（スーパーバイザー）認定」を取得し、販売・据付工事業務と合わせて、メンテナンス業務まで一括して受注していった。

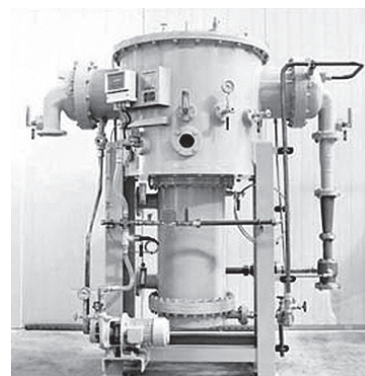
★ 今後の注力部門 ★

近年、重油の高騰により、陸用発電設備の多くは休

止状態に陥っている。しかし、平成23年（2011年）3月11日午後発生した東日本大震災以降、電力会社の原子力発電所のほぼすべてが稼働停止に追い込まれている。それに伴い、製造メーカーの生産工場においては、特に電力需要がピークを迎える夏季に、深刻な電力供給不足に起因して、再び計画停電が実施されるのではないかと懸念が広がっている。その停電対策の一環として、製造メーカーにおいては、生産工場に設置された既存の発電設備の稼働率の向上や、新規の発電設備の設置などが増加している。

長崎マリンサービスでは、そうした自家発電設備向けに主に300kWクラス～5,500kWクラスの液体燃料仕様のディーゼルエンジンや、大型自家発電設備向けに都市ガス燃料仕様のガスエンジンを販売するとともに、据付工事・保全業務を行っている。九州地区一円はもとより、遠くは関東地区まで足を伸ばし、さらに近年では同社の技術力を高く評価する海外ユーザーからの要請に応じて、海外でのエンジンシステムの整備業務も手がけている。また同時に、各海外進出メーカーの海外メンテナンスに協力すべく社員教育も行っている。

今後も整備技術のさらなるスキルアップを図り、顧客の多種多様なニーズに適確に対応できるよう、日々修練を重ねていき、また、特にメンテナンスサービスの受注獲得に注力していく。さらに、優秀な人材及び技術の育成や、造水装置、エネルギーセービングシステムなどの製品供給を通じて地球環境問題解決に貢献できる企業を目指していく。



造水装置



エネルギーセービングシステム